

- コシヒカリの調査ほ場の出穂期は近年並みの7月31日頃となりました。出穂後の気温が高めに推移した場合、**登熟が早く進む**と予想されます。
- ほ場ごとに籾の黄化状況を確認して、適期の刈取りに努めてください。
- 適切な乾燥・調製で、胴割米などによる品質低下を防ぎましょう。



1. 刈取りまでの水管理

～間断かん水で最後まで稲の活力を維持しましょう！～

- (1) 刈取りの5～7日前までは「間断かん水」を行い、根に適度な水分を与えて、活力を維持しましょう。 ※フェーン等の高温が予想される時は、**事前に入水**！
- (2) クサネムやヒエなどの雑草は、籾に混ざらないように刈取りの前に必ず抜き取りましょう。



2. 適期刈取

～適期刈取で胴割米の発生を防止！～

- (1) 中生では、籾の黄化率85～90%が刈取適期ですが、出穂後の気温が高めに推移した場合は、胴割米が発生しやすいので適期内に刈取が終わるように籾黄化率80%から開始しましょう。
- (2) 品種や作型ごとに黄化状況を見極めて、黄化の早いほ場から計画的に刈り取りを始めましょう。特に枯上がり早いほ場は、刈遅れによる胴割米の発生に注意しましょう。

表1 「コシヒカリ」の刈取開始時期の目安（登熟日数36～37日）

出穂期	7月29日頃	7月31日頃	8月4日頃
刈取開始(目安)	9月2日頃	9月5日頃	9月9日頃

※成熟期が高温の場合、刈取適期の期間が短くなるので、刈遅れに注意しましょう。
※刈取直前に各地域に設置する「刈取適期表示」(刈取始期を表示した表示札)を参考に刈取り時期を判断してください。



3. 適正な乾燥で胴割米・過乾燥米の発生防止

～玄米水分は14.5～15.0%に仕上げる！～

【乾燥作業の留意点】

- (1) ヤケ米の発生防止のため、刈取った籾は4時間以内に乾燥機に張り込み、常温での通風循環を2～3時間程度行いましょう。
- (2) 適正な送風温度や、二段乾燥（籾水分が17%台になったら一時中断し、水分を均一にする）により急激な乾燥を避け、**玄米水分を14.5～15.0%に均一に仕上げましょう。**
- (3) 籾水分が低い場合や、乾燥時の気温が高い場合などは、送風温度を機種基準より低くし、急激な乾燥を避けましょう。
- (4) 青米の混入程度を確認し、表2を参考に乾燥機の停止水分を設定しましょう。

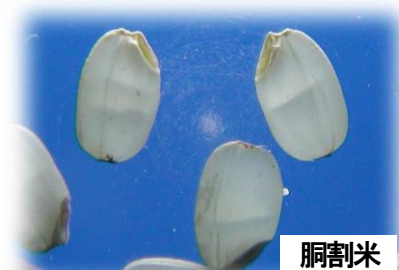
表2 青米の混入程度と乾燥機の停止水分の目安

100粒中の青米数	乾燥機の停止水分	乾燥機停止後の水分変化
0～5粒	15.0～15.5%	乾く (-0.5%)
6～10粒	14.5～15.0%	ほとんど変わらない
11粒以上	14.0～14.5%	もどる (+0.5%)

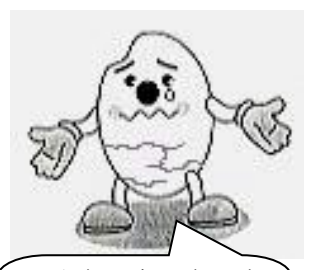
※玄米水分が17%を切ったら、手動水分計でこまめに測定しましょう。

【調製作業の留意点】

- (1) 籾摺りは、乾燥後2～3日置いて玄米水分を均一にしてから行い、肌ずれ米の発生を防ぎましょう。
- (2) 選別は1.9mmの篩目（つくばSD2号は1.85mm）を使用し、機種ごとの適正流量を守り、整粒歩合を高めましょう。



※精米すると砕けるため、米卸業者からは、軽微な胴割れも防ぐことが求められています！！



こんなことにならないよう気をつけてくださいね！

事前点検でコンバイン事故などを防ぐとともに、秋も熱中症予防に取り組みましょう！！
秋の農作業安全運動期間 8月20日～10月20日

土づくり特集

令和8年産米に向けて、いざ土づくり！ 美味しいあおば米は、まず土づくりから！！

1. 土づくり資材の施用

～地力向上のため継続して施用しましょう！～

- (1) アルカリ成分を含むケイ酸質資材は毎年、適正量を施用しましょう。
- (2) 土壌pHが低いとカドミウムが吸収されやすくなります。カドミウムの吸収を抑えるため、土壌pHは6.0～6.5を目標に施用を継続しましょう。
- (3) 粃殻、わらはは重要な土づくり資源です。絶対に燃やさず、すき込みましょう。
- (4) 営農組織や集落単位で、効率的な土づくりに取り組みましょう。

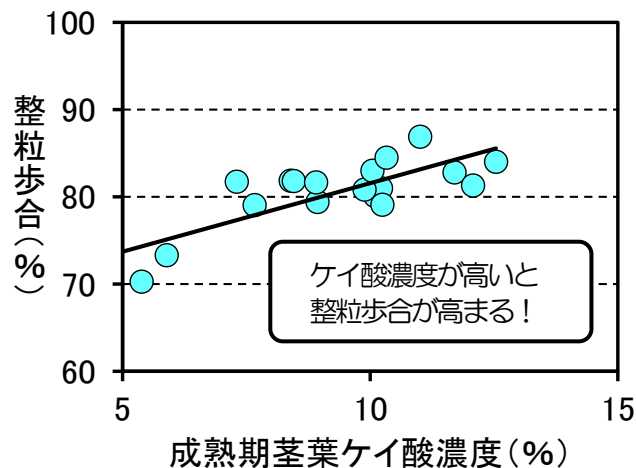
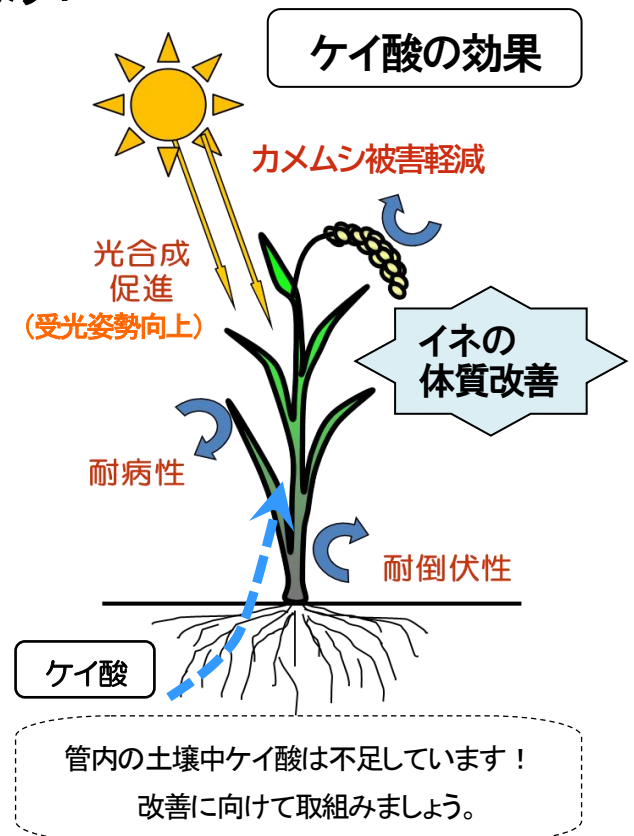


図1 成熟期の茎葉のケイ酸濃度と整粒歩合の関係

ケイ酸の施用により

- ① 高温条件でも品質が安定
- ② 倒伏に強くなる
- ③ 割れ粃の発生を抑え、カメムシによる被害が軽減される
- ④ いもち病などの被害が低減



【土壌改良資材（ケイ酸&アルカリ分）の施用の目安】

資材名	施用量 (kg/10a)	主な成分	ポイント
シリカロマン	100	ケイ酸 25%、アルカリ分 45%、リン酸 5%、鉄 5%、苦土 7%	ケイ酸、リン酸を補給、pH 矯正効果が高い。
有機加里入 シリカロマン	100	ケイ酸 20%、アルカリ分 36%、リン酸 5%、加里 4%、鉄 4%、苦土 5%、有機 20%	シリカロマン＋有機質・く溶性カリ 穂肥のカリ・リン酸を秋・春先に省力散布。
鶏果良好	100	ケイ酸 26.5%、アルカリ分 26%、リン酸 3%、加里 5%、苦土 1.5%、マンガン 1%	遅効性のカリ成分が高く、中間追肥の省力化につながり経済的。
グリーンウェイブ DX ペレット	90	ケイ酸 24.9%、腐植 19.8%、石灰 9.13%、リン酸 3.56%、窒素 1.45%、加里 2.47% 他	ケイ酸、腐植、微量元素を一挙に補給。

※上記の他にも土壌改良資材を各種取り揃えていますので、各地区営農経済センターへご相談ください。

2. 有機物の活用

～有機物の散布で「あおば米」の食味向上！～

- (1) 牛ふん、豚ふん、粃殻堆肥や発酵鶏ふんの散布に努めましょう。
- (2) 堆肥が確保できない場合は、地力増進作物をすき込み、腐植を増やしましょう。

【堆肥】(秋施用)

堆肥名	散布量(10a 当り)
牛ふん堆肥	1～2t
豚ふん堆肥	
粃殻堆肥	2t
発酵鶏ふん	75～105kg

【地力増進作物】(秋播き)

＜ヘアリーベッチ＞

品種	晩生品種
播種時期	水稻刈取後～10月中旬
播種量	3～5kg/10a
すき込み時期	4～5月

緑肥作物の効果

- ① 土壌物理性（通気性、透水性、保水性）が改善
- ② 後作物の収量、品質の向上
- ③ 後作物での減肥と環境保全効果（窒素供給、地力の消耗や雑草、斑点米カメムシの発生を抑制）

3. 作土深の確保

～根を深く伸ばし、稲の活力を向上！～

- (1) 深さ 10 cm 程度の浅めの秋起こしを行い、稲わらや粃殻の腐熟を促進しましょう。

※地温が高く、ひこばえが出穂する前の9～10月に実施すると効果的

- (2) 春耕は、トラクターの作業速度を落として、作土深 15cm 程度を確保しましょう。

※深起こしにより、作物の根が深く伸び、肥料の吸収効率アップ！

いざ土づくり！
美味しい富山を届けよう！



十月一日は土の日

秋の土づくり運動

期間 9月15日～11月15日